


平成 29年 9月26日

出雲市議会議長様

氏名 板倉 一郎  印

### 視察研修について (届)

このことについて、下記により実施いたしますので、関係書類を添えて届けます。

1. 日 程	平成29年10月16日 ~ 平成29年10月18日 (3日間)	
2. 視 察 研 修 先 視 察 研 修 目 的	大瀉村	農業政策について
	紫波町 (オガール紫波株式会社)	オガールプロジェクトによる都市開発事業 について
3. 参 加 者	板倉 一郎  計 1 名	
4. 添 付 書 類	1. 行程表	



# 行政視察報告書

出雲市議会議長 様

平成30年1月18日

板倉 一郎

639

視察名

行政視察（平成29年10月16日～10月18日）

視察先

大潟村

農業政策について

及び

調査事項

紫波町

オガールプロジェクトについて

視察所感

## （1）大潟村農業政策について

大潟村は、村自体が農業を最盛する目的で造成された自治体であり、農業以外の産業はなく、まさに農業のための施策を実行していけば良いように、村民の居住地および行政施設などが一か所に集約され、非常に行政効率の良い自治体であった。また、全国から入植してきた村民は、農業で身を立てるために自ら望んで応募している人たちで、農業に対するモチベーションは非常に高いとのことであり、耕作放棄地は全くなく、むしろ耕作意欲が高く農業者は、少しでも多くの土地を求めているとのことであった。

これをそのまま出雲市に当てはめるには無理があるが、儲かる農業を行いたいと思っている農業者と、農業の持つ多面的な機能を維持するための農業と2つに分けて考えていく必要性を感じた。出雲市でも、平田地区において大規模な農地の再編がおこなわれるが、ここについては、大潟村の農業者が成功した事例をおおいに参考にすべきと感じた。

## （2）紫波町オガールプロジェクトについて

紫波町では駅前の開発に失敗し、10.7haの土地が10年ほど塩漬けになっていました。紫波町としては、この開発に予算をつけることができず、補助金もあてにできない状況にあり、民間で実務経験の豊富なメンバーで構成されるデザイン会議

の意見に従って、プロジェクトが開始された。稼働率、運用などから収入を見こして施設を作り、得られた収益で維持費を賄う、公に頼らない開発が実現しました。

このプロジェクトの最も重要なのは、テナント等の入居を先に決め、それらから建物の規模や費用を算出した点にある。また、特別目的会社が建築を担当して民間の目線で必要なコストを抑え、銀行の融資や政府系金融機関の出資で資金を賄い、後に公共施設部分を紫波町に売却した。必要最小限の設備で最大限の運用が可能となり、公共部分でさえ建築費用や維持費を抑制できました。この事業は、行政が、特定の民間事業者へ大きな権限を任せる決断をできたことが重要なポイントであると考えます。出雲市においても、イリスの丘や旧石橋邸、平成スポーツ公園および平成温泉などの利活用を検討する時、一つの参考になると考えます。